

ハーバード大学公衆衛生大学院 (HSPH)
武見プログラム視察 (報告) の件

1. 訪 問 日 : 平成 27 年 6 月 5 日 (金)
2. 出 張 先 : ポストン (アメリカ)
3. 出 張 者 : 横倉会長、松原副会長、石井常任理事
(随 行) 能登国際課長、五十嵐主査
4. 内 容 :

横倉会長、松原副会長、石井常任理事が設立 32 年目を迎えたハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラムの視察を行った。まず、プログラムの現状と今後について、マイケル・ライシュ主任教授との面談を行った後、ライシュ教授が本年 9 月より 1 年間のサバティカル (長期間勤務者に付与される長期休暇) に入るため、その間にプログラムの事務局長として任命されたジェシー・ボードマン・バンブ准教授 (2010-11 年武見フェロー、米国) の紹介があった。バンブ事務局長の任期は 3 年間。また、HSPH ではライシュ教授の後任の主任教授を公募している。

研究発表では、10 名の武見フェローによる報告 (後出) を受け、横倉会長、松原副会長、石井常任理事から各報告者へコメント、アドバイス及び質疑応答が行われた。その後、同大学院等に所属する日本人研究者との懇談を行った。

午後からは、フリオ・フレンク学院長との面談で、武見プログラムの評価と将来のあり方、ライシュ教授の後任について意見が交わされた。横倉会長から、後任人事は指導力に加え、日本に理解があり、日本医師会と共にプログラムを支えていける人材が好ましいことが伝えられた。フレンク学院長からは、武見プログラムは 30 年以上も継続されたプログラムで、50 ヶ国を超えるフェローが国際保健と公衆衛生を学ぶなどの特色があり、ハーバード大学の中でも高い評価を得ていることが述べられた。そして、日本医師会の支援を受けながら将来においても是非継続していきたいとの意向が示された。

続いて Harvard Global Health Institute のディレクターでもある、HSPH のアシシュ・ジャ教授との面談が行われ、医療の質研究の第一人者である同教授と、医療の質の評価、アメリカの医学教育の問題点やオバマケアについて議論を行った。

同日夜には、在ポストン日本総領事公邸において、平成 27 年春の外国人叙勲「旭日中綬章」を受賞したライシュ教授への伝達式が行われた。伝達式には、本会代表団、武見フェロー、ハーバード大学関係者含め約 50 人が参加した。冒頭、姫野勉総領事からライシュ教授に賞状並びにメダルが授与され、引き続き参加者を代表して横倉会長が祝辞を述べた。

また、4 日 (木) にニューヨークを訪れ、JETRO ニューヨークセンターを訪問し、川端裕之駐在員 (厚生労働省) と面談。オバマケアの下でのアメリカの医療事情について説明を受けた他、TPP について意見交換を行った。

さらに、東日本大震災発生時に米軍の協力の下、被災地への医薬品搬送の活動に従事し、現在ユニセフの緊急管理担当官としてニューヨークで活動する有井麻矢医師と面談し、医療分野の国際情勢について議論を交わした。

6. 2013-2014 年武見フェロー報告者

氏名	所属	研究テーマ
金森 将吾 (日本、男性)	東京大学大学院国際地域保健学教室客員研究員	途上国の医療施設への日本式 5S の概念を導入することの効果
Sang Min Park (韓国、男性)	ソウル国立大学医学部 がん教育情報部医長 家庭医学部准教授	北朝鮮における非公式の保健市場と医療制度への影響
El-Fatih El-Samani (スーダン、男性)	アーファド女子大学 地域医療学教授	スーダンにおける保健研究の計量的手法による教育プログラムの開発
田沼 順子 (日本、女性)	国立国際医療研究センター エイズ治療研究開発センター 専門外来医長	アジアにおけるマルチセンターHIVコホート研究
Dario Novak (クロアチア、男性)	ザグレブ大学運動生理学教授	社会資本と若年層の身体活動：クロアチアにおける高校生を対象とした研究
Maryam Farvid (イラン、女性)	栄養学食品技術教授、地域栄養学部、シャヒード・ベヘシュティ大学、テヘラン	タンパク質の栄養源と死亡率の相関関係、ゴレスタン州のコホート研究
Ronald Tran Ba Huy (フランス、男性)	世界 AIDS、結核、マラリア対策基金、中央アフリカ地域管理官	世界 AIDS、結核、マラリア対策基金における 10 年間の援助金決定の実証研究
Haeyoung Kwon (韓国、女性)	ソウル国立大学、健康環境研究所研究教授	韓国における特許期限切れ医薬品の市場競争の新価格政策ジェネリック医薬品参入後の市場拡大プロセスの研究
橋本 謙 (日本、男性)	JICA 中米シャーガス病対策広域アドバイザー	グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスでのシャーガス病に関する地域密着型媒介生物の侵入・生息調査と医療サービス対応の決定因子
Nadeem Alduaij (クウェート、男性)	SAHA 総合研究所 (公衆衛生政策シンクタンク) ベスイスラエル病院救急医	アラブ湾の医療財政 クウェート、UAE、カタールの医療制度の財政、社会保険導入の実現可能性の視点から

2015年アメリカ医師会（AMA）年次総会出席（報告）の件

1. 訪問日：平成27年6月8日（月）、9日（火）
2. 出張先：シカゴ（アメリカ）
3. 出張者：横倉会長、松原副会長、石井常任理事
（随行）能登国際課長、五十嵐主査
4. 内容：2015年アメリカ医師会（AMA）年次総会において、スティーブン・スタック新会長就任式に出席した。スタック会長はケンタッキー州出身の救急医で、年齢は43歳とAMAでは過去160年における最も若い会長である。次期会長にはペンシルベニア州出身の整形外科医でAMA理事のアンドリュー・ガーマン医師が選出された。その他、会期中にAMA幹部、世界医師会（WMA）役員等の海外招待者との意見交換を行った。また、石井常任理事が、ロニット・カツツ医師（米軍所属、スタンフォード大学教授）と面談し、「災害への備え」に関して意見交換を行った。
5. 日程：
 - 6月8日（月） 海外招待者対象夕食会出席、石井常任理事面談
 - 9日（火） スタック新会長就任式出席、年次総会夕食会出席
6. AMA総会期間中に面会したAMA幹部

Dr. Steven Stack	新会長
Dr. Robert Wah	前会長
Dr. Ardis Dee Hoven	元会長、WMA議長
Dr. James Madara	CEO
Dr. Joe Heyman	元理事、WMA準会員会議議長
Ms. Robin Menes	国際・総務部長
Ms. Ellen Waterman	国際部政策課長

7. 面会した主な海外招待者

Dr. Xavier Deau	WMA会長（フランス）
Dr. Otmar Kloiber	WMA事務総長（ドイツ）
Dr. Jeff Blackmer	WMA進行補佐、カナダ医師会副会長
Dr. Heidi Stensmyren	WMA理事、スウェーデン医師会長
Dr. Cindy Forbes	カナダ医師会次期会長
Dr. Mark Porter	イギリス医師会議長
Dr. Somsri Pausawasdi	タイ医師会CEO、元会長
Dr. Saranatra Waikakul	タイ医師会次期会長
Dr. Apisamai Srirangson	タイ医師会理事
Ms. Leah Wapner	イスラエル医師会事務局長、弁護士